

## 特集

## 磯部琇三氏の思い出

佐藤明達

磯部琇三氏（1942.7.16～2006.12.31）が亡くなられたことは、2007年2月16日20時、大金要次郎氏からの電話で初めて知った。私より14歳も若いのに、突然の逝去に驚いた。翌17日、朝日新聞夕刊に「天文学者、死亡広告で『家族に手紙を』最後の伝言、50通の返信」という記事が出て、彼の死を実感させられた。

私と磯部氏との関わりは古い。東京都立戸山高校の平瀬志富氏と私が、日本天文学会年会と並行して1970年春天文教育懇談会を立ち上げてから、氏はたびたび参加して積極的に意見を述べてくれた[1]。

1983年頃であったか、私の勤務している大阪市立電気科学館の5階天文室に磯部氏が友人と連れ立って現れた。もみあげが特徴の、丸っこい顔であった。「学会をクビになった」と言われたので驚いたが、天文月報の編集委員を辞めたことを指しているのだった。氏が自著「なにがオリオン大星雲で起こっているか」の194頁でオリオン座と星の東隣の星雲をIC434と書いているので、正しくはNGC2024でしょうと申し上げた。「灼熱の星間空間」126頁でも同じように書いている。

その後同志と語らって氏が1989年夏第3回天文教育研究会の折に天文教育普及研究会を創立し、初代会長に選出されてからはたびたび歓談する機会があった。野球が大好きであること、外国の共同研究者にアイデアを横取りされたこと、大地主であることなどを聞かされた。京都大学での私の同級生伊奈辰之君は卒業後数年して東京天文台に職を得たが、惜しくも夭折された。磯部氏はその後任だったとのことである。

磯部氏は東京都北区王子の駿台学園高校に

肩入れし、天文教育に力を尽くした。理事会を説得して北軽井沢の研修施設「一心荘」にすばる望遠鏡のミニチュアである経緯儀式反射望遠鏡を設置させた。

私と大金要次郎氏と共に1994年「教育関係図書検討ワーキンググループ」を立ち上げたのも磯部氏の強いおすすりによる。その後メンバーも減って結局尻すぼみに終わってしまったが、どこでの年会であったか忘れたが、磯部氏の車で他の数人と年会会場から駅まで送っていただいたことがある。1993年福島市における第7回年会で私は「磯部図の吟味」を発表して氏の所論に異義を唱えたが、氏はこれを根にもつようなことはなく気軽に同乗を許して下さった。

磯部氏を研究会の会長に迎えて私達は大船に乗った気持ちであった。会の前途は洋々たるものと見えた矢先、氏は突然1993年12月を限りに会長を辞任すると表明した。運営委員会は大慌てで事態の收拾に奔走し、水野孝雄氏を第2代の会長に推してどうにか事無きを得た。磯部氏の弁明[2]を読むと辞任もやむを得ないという気がするが、もっと前から事情を会員に説明し、幹部にも根回しをしておくべきだったと思われる。

磯部氏の専門は星間物質・望遠鏡技術だという。皆既日食のとき太陽の周りに塵の輪を発見して新聞にも報道された。光害防止や小惑星地球衝突の監視にも深く関わって来られた。会長を辞められてからはお顔を見る機会が減ったが、2001年福岡で開催された第15回年会には久しぶりに参加されて「国際天文学連合第46委員会の改編と今後」の題で発表された（私は参加しなかったが）。日本天文学会2005年春季年会が東京都日野市の明星

大学で開催され、3月28日シェークスピア・ホールで天文教育フォーラムが持たれた。活発な議論が交わされ、私も発言したが、磯部氏も会場から意見を述べられた。私が氏の姿に接したのはこれが最後であった。

氏は1942年大阪・船場に生まれ、大阪府立清水谷高校を経て東京大学理学部物理学科を卒業された。氏の大阪弁を一度聞いてみたかった。磯部氏は多数の著書を著わして天文学の普及に多大の貢献をした。私もこれらの著書から多くの恩恵を蒙っている。磯部氏が亡くなっても氏の著書は今なおやさしく私達に語りかけてくれている。氏の逝去にあたり謹んで哀悼の意を表する。最後に磯部氏の著書の大要を記して、故人の業績を偲ぶよすがとしたい。

#### 磯部琇三氏の著書・訳書・編著書等の概要

- (1) 「なにがオリオン大星雲で起こっているか」 講談社ブルーバックス、1980
- (2) 「灼熱の星間空間」 誠文堂新光社、1982
- (3) 「散光星雲」 地人書館、1982
- (4) 「世界の天文台」 河出書房新社、1983
- (5) 「講座 太陽系 I」 (編著) 河出書房新社、1983
- (6) 「南天天体写真集」 (編著) 池人書館、1984
- (7) 「星の誕生」 共立出版、1985
- (8) N. ヘンベスト、M. マーテン著、磯部監訳「宇宙 — 100億光年への挑戦」 教育社、1985
- (9) 「宇宙のはてを見る — 180億光年の旅」 講談社ブルーバックス、1988
- (10) 「星空へのガイドブック — 理科年表読本 スカイウォッチングを楽しもう」 丸善、1988
- (11) 「天文学を変えた新技術」 朝倉書店、1990
- (12) L. J. Kelsey, D. B. Hoff, J. S. Neff 著、磯部・平山智啓訳「アストロノミー — 天体観測基礎知識」 誠文堂新光社、1990
- (13) 堀源一郎・磯部共著「はるかな星空へのステップ — 人間は宇宙に何を見て来たか」 けやき出版、1990
- (14) 「第二の地球はあるか」 講談社ブルーバックス、1991

- (15) 「太陽の輪の謎に挑む—ある天文学者のメキシコ登山日記」 けやき出版、1993
- (16) J. B. ケイラー著、磯部・平山訳「星の物理 — 誕生から死まで」 日経サイエンス社、1993
- (17) 「宇宙のしくみ」 日本実業出版社、1993
- (18) 「宇宙を意図(デザイン)したのは誰か — 人類が滅んだあとに存在するもの」 PHP 研究所、1995
- (19) 「宇宙誕生の疑惑 — ビッグバンはなかったか」 大和書房、1995
- (20) P. M. ドーバー、R. A. ミュラー著、磯部訳「宇宙で起こった3つの大爆発」 三田出版会、1997
- (21) J. グリビン、M. グリビン著、磯部外訳「彗星大衝突—地球を焼きつくす宇宙からの脅威」 三田出版会、1997
- (22) 「宇宙はこうして発見された — 宇宙の謎へのアプローチ物語」 河出書房新社、1997
- (23) 「巨大隕石が地球に衝突する日 — 人類最大の危機を回避するために」 河出書房新社、1998
- (24) 磯部外編「天文の事典」 朝倉書店、2003

ほかの執筆・寄稿文として

- (25) 藪下信編「彗星と星間物質」第7章 地人書館、1982
- (26) 地球衝突小惑星研究会編「いつ起こる小惑星大衝突」 講談社ブルーバックス、1993
- (27) 日本スペースガード協会著「小惑星衝突」 ニュートンプレス、1998

#### 参考文献

- [1] 磯部、1989、天文教育研究会のこれまでの経緯と今後の展開、第3回天文教育研究会集録、pp. 13~19
- [2] 磯部、1994、会長辞任にあたり、天文教育普及研究会回報 No. 15, p. 33